

NOKAIDAI NOW

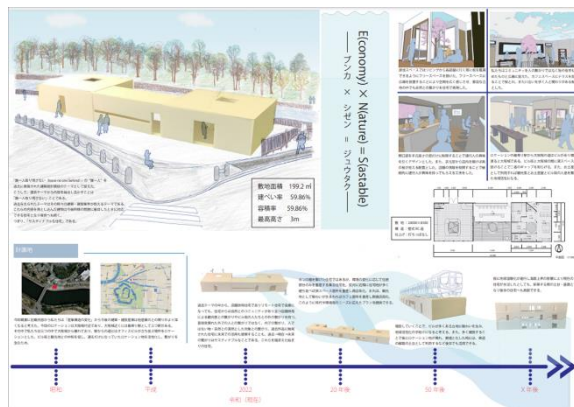
学生が入賞しました！

第5回 建築設計競技 テーマ「サステナブル住宅」(【主催(一社)実践教育訓練学会】)

2等 総合資格学院賞 受賞 伊東 准平さん・和田 歩さん

上位作品 加藤 来夢さん・吉田 千倅さん、吾郷 翔大さんも大健闘

(全員：建築施工システム技術科 2年生)



(伊東さん・和田さんの作品)



伊東 准平さん(左)のコメント

人との協力なしでは建築はできない

コンペのテーマを深く知るために、過去のテーマや優秀作品を読み込んで分析しました。その結果、新しい時代に対応できる、増減築可能な店舗兼住宅ができたと思います。

また、コンペにチームで参加したことで、分業体制で協力しないと建物は建てられないということを実感しました。就職し現場監督の道へ進んでも、他の人と協力していきたいです。

和田 歩さん(右)のコメント

伝わるように工夫する

サステナブル住宅というテーマから「水」や「川」を連想して、パネルではブルーを中心に使うようにしました。審査員にコンセプトが伝わるための工夫です。今回、ロケーションは大阪城周辺を想定していましたが、パネルに載せた地図のみでは伝わりにくいようです。大阪以外の人にもわかりやすいように伝える必要性を学びました。





(加藤さん・吉田さんの作品)

加藤 来夢さん(右)のコメント

手書きでコンセプトを伝える

サステナブル住宅というテーマから、竹を連想し、竹を組んで作っているオブジェからヒントを得て設計を考えていきました。外壁などすべて竹を組んでいる住宅なので、現実的ではありません。そのため、審査員にコンセプトが伝わるよう、パネルは温かい色使いを使用し、あえて手書きにこだわりました。場面に応じて、手書きとPCの両方を使い分けて伝えていきたいです。



吉田 千倅さん(左)のコメント

生活が見える設計

竹ひものお盆や、その断面図から着想しました。パネルでは、実際ご飯を食べたり、お風呂に入ったり、ベッドで寝ている様子が伝わるように温かみのある手書きで仕上げました。コピーを5枚とって、失敗してもいいようにしておいて作業しました。今後、就職先では、お客さんが、普段の生活が想像のしやすい図をサッと描いて出せるように相手の立場に立った対応をしたいと思います。



(吾郷さんの作品)

(吾郷 翔太さんのコメント)

古材を使うことでサステナビリティにつながる

日本の住宅で問題になっているスクラップアンドビルドという問題を解決できるよう、住宅の耐久年数を上げるように考え、古材を生かすアイデアを思いつきました。祖父の家業もあり古材の凄さを知っていたからです。

最も熟考したところは、アイデアを作業に落とし込むところです。反面、審査員へのアピールは、少しと弱かったかもしれないと思います。今後は、表現力・話し方・伝え方をわかりやすくしていきたいと思いました。また、就職先でもこの経験を生かしていきたいです。

コンクールについて

第5回 建築設計競技 テーマ「サステナブル住宅」(主催：一般社団法人 実践教育訓練学会)

詳しくは実践教育訓練学会のホームページをご確認ください。